

号外！ おおさか剣道かわら版

剣道・居合道・杖道大好き！ みんなの情報誌です！

Vol.023
2023. 6. 1 発行

発行責任者
公益社団法人
大阪府剣道連盟
広報PJ

第71回全日本都道府県対抗剣道優勝大会速報 大阪府が14年ぶりに優勝！



令和5年4月29日(土・祝)大阪・難波のエディオンアリーナ大阪(大阪府立体育会館)で開催され、決勝は奇しくも昨年三位同士の大阪府と福岡県の対戦。白熱した試合の結果、大阪府が勝ち、14年ぶりの優勝を果たしました。

試合結果 優勝 大阪府
二位 福岡県
三位 千葉県、東京都

優秀選手に、五将 山崎 将治選手が選ばれました。

熱戦の詳細については、全剣連 HP、YouTube でご覧ください。

[The 71st All Japan Interprefecture KENDO Championship | Flickr](#)



次鋒	五将	三将	副将	大将	先鋒	中堅	監督
林	山崎	草野龍二郎	野中	平田	石塚	吉田	三浦
陽暉	将治		敦司	裕亮	太陽	太陽	秀人



居合道特別講師講習会の開催

令和5年4月1日・2日の両日、特別講師 全日本剣道連盟居合道委員会委員長 範士八段 草間純市先生をお迎えして、大阪市立修道館において居合道特別講師講習会が実施されました。参加者は、二段から八段まで、のべ199名が受講しました。

開講式では、西口芳治 大阪府剣道連盟 副会長兼専務理事の挨拶と、特別講師 草間範士のご挨拶があり、その後、講習会が開始されました。



最初に、＜居合道と倫理 ～ 人として踏み行うべき道＞について講話を頂きました

次に、今回の講習会は「居合道の技術の向上」というのが目的であると話されました。

居合道実技の前に、武道として基本の、構え・手の内と指導者のあり方等について、相手を立て詳細に説明されました。その中で、お互い尊敬の念、思いやり、丁寧な対応が必要と京セラ創業者 稲盛和夫さんの教え「敬天愛人」を引用されました。

指導者は教えながら育み、出来るようになる手助けをし寄り添える気持ちで、学ぶ側も見ながら学び覚え自分を作り上げ、「もっと頑張ろう」という気持ちが沸き技の探求に繋がります。

段位・年齢に関係なく、人間として対等、一個の人間としてお互いに向かい合うことが、居合道の理念～剣の理法の修錬による人間形成に繋がると話されました。

実技に入り、全日本剣道連盟居合 12本の技を1本目から演武者を立て、仮想の敵を実想と捉え行ずる（型でなく、形で行うことで技が生きる）ことの重要性を説明されました。

2日間に渡り、厳しい中にも温かい心のこもったご指導（良薬は口に苦し）を受け、大阪居合道会員一同、今後の修業への励みとなる有意義な講習会でありました。

最後に、公私ともお忙しい中、ご指導頂きました範士 草間純市先生には、衷心より御礼申し上げます。また今講習会を主催して頂きました、大阪府剣道連盟に深く感謝申し上げます。

（大阪居合道部・部長 範士八段 光行良一）



令和5年度 第1回認定指導員（ビギナーズパートナー） 養成講習会報告

令和5年4月22日 修道館で認定指導員の養成講習会が開催され、
29名の受講者の方々が 見事認定書を取得されました。

開催日時：令和5年4月22日 9:30～12:00

開催場所：修道館（大阪城内）

主催代表：西口芳治大阪府剣道連盟副会長兼専務理事

指導講師：大阪府剣道連盟 未来構想委員会委員

濱口雅行（副会長）、角谷 豊（理事）、吉

村信人（理事）、三上由美子（理事）、中尾

真吾（大阪府警）、佐伯陽介（高体連）、高

宮敏光（中体連）、那須恵美（箕面剣友会）

太田順康（アドバイザー：大阪教育大学）

受講生：29名（男性11名、女性18名）

平均年齢 45.3歳（19歳～78歳）

段 位：無段11名、初段1名、2段7名、3段6名、

4段1名、5段2名、6段1名



写真は手拭い取りゲーム

当連盟史上 初めての初心者指導に特化した指導者（ビギナーズパートナー）養成講習会です。国家的な懸案事項である少子高齢化が剣道界にも大きな影響を与えています。加えて、せっかく剣道を始めてくれた子ども達の中途リタイアが止まりません。一般に「継承なくして発展は無い」と言いますが、剣道界ではその継承者が居なくなるのでは、という大きな不安が募っています。斯道にとって正しく存亡の危機と言っても過言ではありません。

そこで大剣連では、仲間入りしてくれた子ども達の心に剣道への仄かな興味の炎を灯してもらうため、そのノウハウの一端を紹介し、ご理解いただくことを目的として本講習会を開催しました。

少し子ども達の心理を覗いてみましょう！サッカーではカッコいいスポーツウェアに身を包み、友達

とグラウンドを駆け回り、楽しくて仕方がない様子です。テレビはワールドカップにおける日本人プレイヤーの活躍を伝えていますし、野球では、WBCで侍ジャパンがアメリカの地で優勝し、多くの日本人に感動を与えました。

この状況を見た子ども達が、市や町の体育施設や小学校の体育館で「人間形成・・・」を語られ、正座をして額を床につける位まで腰を曲げ、これが日本の伝統的な礼法だと言われても、剣道を続けたいという気持ちが芽生えるのでしょうか？（疑問です！）

本講習会では、「楽しく」をキーワードに、遊びながら自然と剣道の動きが身につくメニューを揃えました。例えば、日本手拭いを使ったゲームや剣道ジャンケンといった遊びを通して、知らぬ間に伝統に触れさせることができるというものです。あるいは、ラダー（梯子）を使ったトレーニングでは、サッカーの練習のようで剣道の足捌きの基礎が身についてしまいます。竹刀操作では、バレーボールを使った種々のボール打ちを行い打突の感覚を体験するなど、子ども達が明日もまたこの場所に来て遊びたい、という「遊び心」に火を付けるような品揃えとなっています。

楽しくなければ子ども達は続きません。全剣連の普及委員会でも、各講習会では「厳しく・真剣に」から「楽しく」へと文言の変更が報告（本年3/7）されました。危機感は同じなのです。しかし、「楽しく」といっても、決して日本の伝統を軽々に扱ったり否定するものではなく、むしろ日本を愛し伝統的身体活動に誇りを感じるような心を育みます。

今回は、初めての試みとして講師陣全員が受講生の皆さんと同じようにジャージ姿で臨みました。これも皆さんがプレッシャーを感じることなくチャレンジできるきっかけになったのではないのでしょうか。果たして、各種目の各所から終始笑い声が聞こえ、皆さんのリラックス感が伝わってきました。我々は「講師が楽しくなければ受講生の皆さんを楽しませることはできない」を合言葉に皆さんと接しました。この点はとても大切なことであり、受講生の皆さんがご自身の道場で指導される際も同様ですよ、とお伝えしました。

以下に、各パートを担当していただいた講師からの感想とアンケート調査による受講生の皆さんからの感想を記しますので、参考にしていただければ幸いです。



写真は竹刀操作（ボール打ち）

閉会式では、受講生を代表して栄えある認定指導者第1号となられた梶田真己子さんに西口専務理事より認定証を授与し、無事終了となりました。

<講習内容～流れ～>

開会

講話：「子ども達の指導におけるコンプライアンスと留意事項」（太田講師）

趣旨説明：講習会の目的

筋肉の話とウォーミングアップおよび
各種スキップ運動（濱口講師）

各種運動：①剣道ジャンケン（吉村講師）

②手拭いタグ取り運動（佐伯講師）

③ラダートレーニング（中尾講師）

④足捌き・竹刀操作（角谷講師・高宮講師）
（各パートを20分でローテーション）

認定証授与

閉会

<講師陣の感想>

①剣道ジャンケン（担当：吉村）

発声から基本動作（所作）を入れて、楽しく興味を引くよう心掛けました。予想より楽しんで理解いただいたのではないのでしょうか。認定指導者の指導や子ども達の感想もフィードバックして改善できたらと思います。

②手拭いタグ取り運動（担当：佐伯）

受講生の皆さんは、意欲も高く、積極的に参加していただけたので、楽しみながら進めることができました。今後は、さらに工夫していただき、より効果の高い方法で子ども達が楽しく取組めるように声

掛けしてあげてくださいと伝えました。

受講生が主となり指導する場面を設けても良いかと思いました。

③ラダートレーニング（担当：中尾）

専門的なラダーではなくテープを使用し、間隔も自由に変えながら、小学生や初心者の方でも、気軽に、遊び心を持って、出来ることを念頭におき、運動と剣道の動作的要素（送り足、踏込み足）をリンクさせて指導しました。

④足捌き・竹刀操作（担当：角谷・高宮）

竹刀の握り、構え、足さばきは、当日の説明により理解していただけたかと思いますが、実際の現場で子ども達に正しく伝えるために、今後は簡単にまとめた資料をお渡しできればと思いました。特にボール打ちに関しては、中心の重要性を体験していただきました。

※反省事項

時間の都合上、用意したメニューの中で「竹刀の分解・組み立て」を行うことができませんでした。安全管理・対策上、とても大切な内容です。受講生の方からもご指摘を受けました。今後は必ず体験していただけるように時間配分について再考致します。

<受講生の感想>

①初めて剣道に触れる子ども達に対して、「こうしなければいけない」等の押しつけや強要をするのではなく、身体を動かすその先に剣道という武道に入り込んでいってもらえる機会を作っていけばいいんだなと感じました。（無段）

②発達障害の子どもに対しての対応で、こうすればいいのかなといった事を考えることができました。（無段）

③指導とは、技術はもちろんのことですが、楽しく自主的に練習ができる環境作り、一人ひとりの人格を大事にした指導が大切だと改めて学ばせていただきました。（二段）

④ともすれば、厄介者として扱われてしまう子ども達も、気持ちに寄り添ってあげること、理解してあげてを教えていただき、一人の親として、指導者として背筋を正していただいた気持ちになりました。すべての子ども達に温かい言葉、歩み寄り姿勢で剣道を楽しんで学んで貰えるように、努力していきたいと思えます。（三段）

（大阪府剣道連盟 未来構想委員会 一同）